

2021 年 1 月 30 日

2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が
急性期病院の退院支援に及ぼす影響

— 非 COVID-19 患者への支援に焦点をあてて —

Impact of COVID-19 Pandemic on Transitional Care
in Acute Hospitals

— Focus on Patient with Non-COVID-19 —

18MN306

中江 紀子

要 旨

背景 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の新興により、高齢者や基礎疾患をもつ人が多く集まる医療機関や介護施設の多くは、嚴重な感染予防策を講じている。このような状況は、患者や家族、院内外が多職種との対話と調整が重要となる急性期病院の退院支援に、少なからず影響を及ぼしていると推測される。COVID-19の流行が、非 COVID-19 患者の退院支援に及ぼす影響についての先行研究はみあたらず、臨床の実践者の話から、その実状を記述したいと考えた。

目的 COVID-19 流行を背景に、急性期病院の非 COVID-19 患者への退院支援のプロセスにおいてみられた現象と退院支援への影響を、退院支援看護師の視点から記述し、COVID-19 流行下における退院支援のあり方および急性期病院から地域への患者の円滑な移行を考える際の手がかりを得る。

意義 厚生労働省が提唱する「新しい生活様式」に沿いつつ、質を維持した退院支援のあり方を検討する一資料となることを期待する。また、COVID-19 流行下の地域包括ケアシステムにおいて、急性期病院から地域への患者の円滑な移行について考えるための一助とする。

方法 急性期病院に勤務する退院支援看護師 3 名を対象に、Web 会議システムを利用して個別に半構造化インタビューを実施し、得られたデータをもとに逐語録を作成した。逐語録を質的データ分析手法である SCAT を用いて分析した。

結果 急性期病院の退院支援プロセスにおいてみられた現象と退院支援への影響は、病院の面会ポリシーにより異なっていた。家族面会と地域支援者の来院が禁止されていた病院では、現象として、「院内にいる患者・医療者」と「院外の家族・地域支援者」の間でつながりの分断が生じ、家族が入院中の患者の病状、ADL・認知機能低下の状況をイメージすることが困難になった。そのため、影響として、退院支援看護師は患者の思いや状況が家族に伝わるようになんとか工夫していた。療養先の決定については「患者と家族と一緒にいられること」が重要な価値となっていた。また、院内外が多職種とのカンファレンスに Web 会議システムを活用し、多職種が参加しやすくなった。後方病院や施設、事業所は、一部で退院患者の受入れを停止することや、受入れ条件としてサービス停止期間や追加の検査、情報提供をもとめることがあった。全体として、イレギュラーな調整業務の増加により退院支援に時間がかかるようになった。

結論 結果をふまえて、家族が入院中の患者の病状や機能低下の状況を実感できるような手立てや、退院支援に関するオンラインカンファレンスへの当事者の参加、病院から地域への移行期の医療と介護の連携について検討する意義があるかもしれないと考えた。また、自宅退院する患者の家族のなかには、介護生活に見通しをもたない人が存在する可能性があるという手がかりを得た。